



The 31st Annual Meeting of  
Japanese Society of Ocular Oncology

# 第31回 日本眼腫瘍学会

プログラム・抄録集

- 会期 2013年 9月14日(土)・15日(日)
- 会場 総合あんしんセンター(高知市)
- 会長 林 暢紹  
医療法人 五月会 須崎くろしお病院 眼科  
高知大学医学部 眼科学講座

Oncology  
**腫瘍と病理**  
Pathology





The 31<sup>st</sup> Annual Meeting of  
Japanese Society of Ocular Oncology

# 第31回 日本眼腫瘍学会

|||| プログラム・抄録集

## 腫瘍と病理

会期 2013年 9月14日(土)・15日(日)

会場 総合あんしんセンター(高知市)

会長 林 暢紹

医療法人 五月会 須崎くろしお病院 眼科  
高知大学医学部 眼科学講座

第31回日本眼腫瘍学会事務局

医療法人 五月会 須崎くろしお病院  
〒785-8501 高知県須崎市緑町4番30号  
TEL: 0889-43-2121 FAX: 0889-42-1582  
E-mail: h-i-m@susaki-kuroshio-hp.or.jp

後援事務局

高知大学医学部眼科学講座  
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮  
TEL: 088-880-2391 FAX: 088-880-2392  
E-mail: im36@kochi-u.ac.jp

## 第31回日本眼腫瘍学会 開催にあたって

会長 林 暢紹 須崎くろしお病院・  
高知大学医学部眼科学講座



日本眼腫瘍学会は、2010年10月に前身の日本眼腫瘍研究会（過去28回開催）を改組し設立され、2011年6月に第29回日本眼腫瘍学会を福島市で、2012年6月～7月に第30回学会を宇都宮市で開催致しました。そしてこのたび第31回学会を高知市で開催させていただくことになりました。このような学会の主催の機会を頂きましたこと、まずは関係各位に御礼申し上げます。

日本眼腫瘍研究会の世話人・代表世話人として研究会の舵を取られていました上野脩幸高知大学名誉教授より、眼病理を専門としていた自分を世話人の後任へ推薦していただき、この研究会・学会に携わるようになりました。上野名誉教授時代に2度この研究会が高知で開催されていますので、今年で3回目の高知開催となりますが、学会として開催されるのは初めてです。

眼腫瘍という敬遠されがちな眼科専門分野ですが、これからますますの高齢化社会の到来とともに、眼腫瘍の患者さんは増加することが予想され、眼科医が遭遇し対処・治療する機会も増えると思います。この学会を通して、眼腫瘍への関心を高め、知識の整理、新しい知見を吸収できるようになれば学会は成功だったともいえます。また、今回の学会テーマは、「腫瘍と病理」と致しました。病理学も腫瘍分野と同じように敬遠されがちな眼科専門分野ですが、腫瘍の病態解明・治療等に、病理学は必要不可欠です。両者が上手く融合して眼腫瘍学が進歩・発展していくものと考えます。

今回、一般演題は全国から47題の演題応募を頂きました。特別講演は、岡山大学病理学教授の吉野正先生と、高知大学病理学教授の降幡睦夫先生にご講演をお願いしました。吉野先生には、眼科関連領域の悪性リンパ腫をはじめとするリンパ増殖性疾患についてのご講演をお願いしており、また降幡先生には、癌をはじめとする悪性腫瘍を考える上で、その土台となるべきベーシックなご講演をお願いしています。テーマである「腫瘍と病理」に沿い、いずれも病理関連の特別講演となっており、腫瘍研究の大きな柱である病理学への感心の高まりを期待しています。また教育講演として、福島県立医科大学眼科の古田実先生には、眼内悪性腫瘍の眼底画像診断について、がん研究会有明病院眼科の辻英貴先生には、眼部における転移性および浸潤性の腫瘍についてご講演して頂きます。

今回の学会は9月の最初の連休を利用しての開催となっていますが、連休の中日9月15日のお昼過ぎには終了できるようにプログラムを組みました。今年は猛暑・酷暑の夏で、さらに南国高知でもあり、学会開催時の9月はまだまだ暑い日も多いとは思いますが、学会終了後は、高知市内近隣の桂浜、坂本龍馬関連博物館等、また東には2011年9月に世界ジオパークに認定された室戸ジオパークがあり、西には清流四万十川と、自然にも大変恵まれた地でもありますので、時間の許す限り高知を堪能して頂ければ幸いです。

若輩の自分が初めて主導する学会ですので、上野名誉教授が開催されたような盛会となるかどうか、また過去2回学会として盛会となった福島、宇都宮のように盛会となるか不安で一杯ですが、何とか成功するように頑張りたいとスタッフ一同考えています。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。



福島 敦樹

高知大学医学部 眼科学講座 教授

高知での日本眼腫瘍学会の開催を心よりお祝い申し上げます。

眼科診療でもっとも困る疾患の一つが眼腫瘍です。患者さんの数は多くはないのですが、そのためか専門家も少なく、視機能のみならず生命予後にも影響を与える、専門性の非常に高い分野です。この分野の研究情報を共有し、多くの眼科医に発信して頂く本会は、眼科の subspeciality 学会の中でも大変貴重な学会だと思います。本学会を高知で開催させていただけることを誇りに思います。

前身の眼腫瘍研究会は平成7年(第13回)、平成16年(第22回)の2度、上野脩幸名誉教授主宰で高知で執り行われました。上野先生の眼腫瘍・病理の血・DNAが、今回の会長である林暢紹先生に脈々と受け継がれていると感じます。また、その流れを発展させている林先生に敬意を表したいと思います。

地方会が打ち切りになり、高知で眼科関連学会を開催することがめっきり少なくなり、高知の良さを知っていただく機会が減ってしまいました。今回は、学会でたくさん勉強して頂き、夜は高知の名産「酒、たたき、…」にどっぷりつかって頂き、先生方が高知での2日間を満喫して頂くことができれば望外の喜びです。

## 高知県へようこそ



野田 幸作

高知県眼科医会 会長

この度は高知での第31回眼腫瘍学会の開催、誠におめでとうございます。

1981年以来、日本人の死因は悪性腫瘍が第1位で、一貫して増加傾向にあり、約3.5人に1人は癌で死ぬ、と言われています。眼の腫瘍は死亡する例があるほか、QOLを大きく損ねる可能性があるため、専門的な対応が要求されます。このような情勢の中で、「眼腫瘍研究会」は「眼腫瘍学会」に発展・充実してきました。これもひとえに会員の皆様の真摯な努力の賜物であります。

本学会の開催地・高知は四国の中でも奥座敷に位置しております。四国山地と太平洋に四方を囲まれており、「いごっそう」とも呼ばれる独自の文化を育んできました。カツオのたたきや、皿鉢料理などの美味しい料理とお酒、そして素朴な風情の日曜市や、幕末の志士・坂本龍馬ゆかりの地など、見どころも沢山あります。

学会で病理組織標本を肴に活発な討論を聞いて、最新の知識を仕入れると共に、可能な限り高知の休日をゆっくり楽しんでいただきたいと思います。

本学会の成功と、関係者の皆様の益々のご発展を心より祈念いたします。

# 会場アクセス図

## 総合あんしんセンター

〒780-0850 高知県高知市丸ノ内1丁目7番 45号 TEL088-822-1196



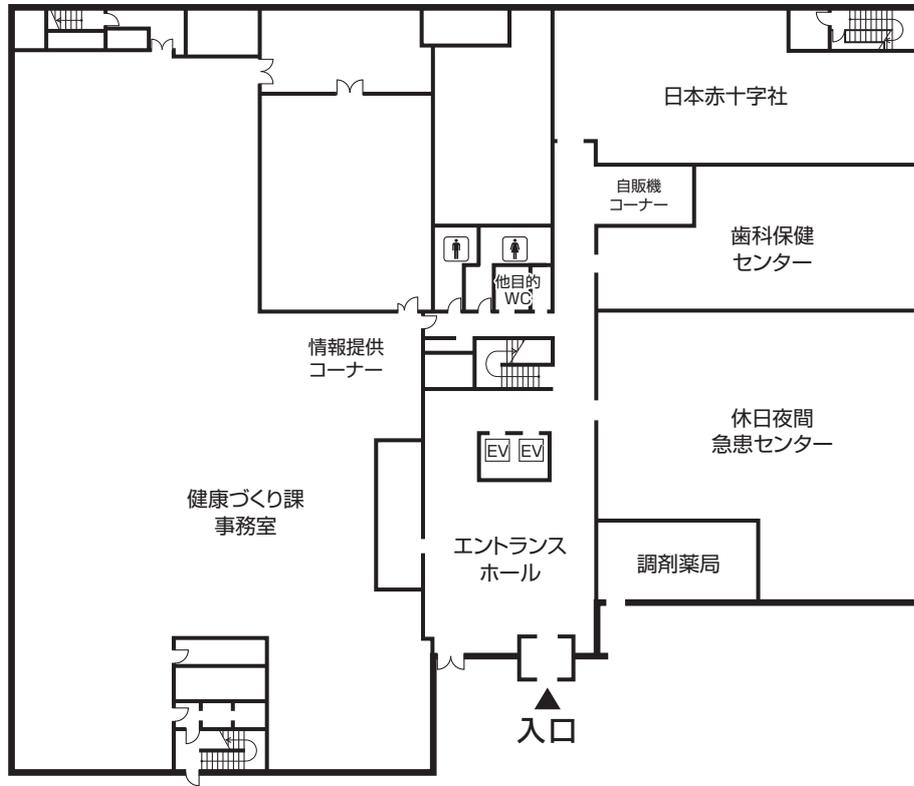
### アクセス (総合あんしんセンター)

- JR土讃線 ..... JR高知駅下車 ➔ タクシーで約10分  
(一番の最寄りの駅はJR入明駅ですが、高知駅下車が便利です)
- 土佐電鉄 ..... JR高知駅から土佐電鉄 檜橋方面行きで「はりまや橋」下車(5分)  
「はりまや橋」で土佐電鉄 伊野・鏡川橋方面行きに乗り換えて  
「グランド通」下車(7分)  
「グランド通」より徒歩で約8分
- 高知龍馬空港から ..... 空港連絡バスで約50分(700円) 県庁前バス停 下車 ➔ 徒歩で約10分  
またはタクシーで約50分

# 会場案内図

## 総合あんしんセンター

1F



3F



## 参加者へのご案内

**参加登録受付** 総合あんしんセンター・3F  
日時：9月14日(土) 9:00～17:45  
9月15日(日) 8:00～11:45

**クールビズ** 節電に取り組んでおります。学会期間中は、上着、ネクタイを外した軽装でお越しください。

**受付方法** 〈事前に登録された方〉  
受付していただく必要はございません。事前に送付したネームカードをご着用の上、ご入場ください。講演抄録を忘れずにご持参ください。

〈当日登録される方〉  
会場入り口受付にて参加登録を行ってください。  
医学部学生は無料です。ただし、抄録集をご希望の場合には、別途ご購入ください。

	参加登録	懇親会費
会員 医師	7,000	7,000
非会員医師	9,000	7,000
初期研修医	1,000	7,000
非 医 師	3,000	7,000

(単位：円)

※会員登録は日本眼腫瘍学会ホームページからのみ受け付けております。  
詳細は、<http://jsoo.umin.jp/> をご覧ください。

**ネームカード** 所属・氏名をご記入の上、入場の際は必ずご着用ください。ネームカードを着用されていない方の入場は、固くお断りいたします。

**講演抄録集** 追加の講演抄録集をご希望の場合には、受付にて1部1,000円で販売いたします。

### 専門医制度単位取得、眼科研修医出席調査証

期 日	時 間	単位数
9月14日(土)	9:00～17:45	3
9月15日(日)	8:00～11:45	3

**会場内での呼出** 呼出をご希望の方は、会場入口の受付までお越しください。会場内でのサイドスライドなどにより、対応いたします。

**会場での注意** 講演内容の録音、写真、およびビデオ撮影は禁止されておりますので、ご遠慮ください。また、携帯電話は、マナーモードに設定して頂くか、電源をお切りください。

**ク ロ ー ク** 会場と同じフロアに設置いたしますので、ご利用ください。

**駐 車 場** 施設内に無料駐車場あり。

**託児ルーム** 会場には用意していません。

# 講演規定

- 本学会の講演はデジタルプレゼンテーション [1面] による発表のみとします。スライド・ビデオでの発表はできません。

## [講演データ持参 (Windows に限る) の場合]

- 会場で使用する PC の OS およびアプリケーションは下記のとおりです。
  - 使用環境：OS Windows7・VISTA・XP をご使用ください。  
アプリケーションソフトは Power Point のみとなります。  
また Power Point 2003 以降のバージョンで作成してください。
  - フォントは次のものを推奨いたします。  
Windows 版：MS 明朝 / MS ゴシック / Times New Roman / Century
- 作成したデータを作成したご自身の PC 以外の PC で確認してからお持ちください。
- 持参していただくデータのウイルスチェックを行っておいてください。
- 作成した講演データは USB メモリーか CD-R で持参してください。
- システムの都合で、PowerPoint の発表者ツールはご使用できません。
- 講演データは PC 受付にてサーバーに一旦コピーさせていただきます。  
(学会終了後、事務局が責任を持って消去いたします)
- 事務局で用意する PC は OS が Windows7、プレゼンテーションソフトは Microsoft PowerPoint 2010 です。
- プロジェクターの画面サイズは XGA (1024 × 768) です。この解像度にあわせてレイアウトの確認をしてください。

## [発表にご自分の PC をご使用になる方へ]

- Mac でご発表の場合、講演データに動画を含む場合、またグラフ・静止画像などをリンクまたは貼り付けされている場合は、ご自身の PC を持込んでください。
- 持込み PC は PC 本体に、ミニ D-sub15 ピン外部出力コネクタが使える物に限ります。
- 超薄型 PC、小型 PC、Mac PC を持込まれる場合、ミニ D-sub15 ピンに変換するコネクタを必ずご持参ください。
- ウイルスチェック、省電力設定、スクリーンセーバーは予め解除しておいてください。
- AC アダプターは必ずご持参ください。
- 万一の場合に備えて、バックアップ用データもご持参ください。

## [データの受付]

- PC 受付 (会場入口)  
講演会場では発表データの受付は出来ません。必ず PC 受付にて受付をお済ませください。
- データ受付時間

日 時	時 間
9月14日(土)	9:00～18:00
9月15日(日)	8:00～12:00

※講演開始1時間前までにデータをご提出ください。

※PC 本体ご持参の場合、PC 受付にて動作確認後、会場内のオペレータ席までお越しの上、スタッフに PC をお渡しください。講演終了後に、その場でご返却致します。

### [ 発表について ]

- 一般演題の発表時間は、発表6分、質疑応答3分、計9分です。  
特別講演、教育講演、ランチョンセミナーは指定された時間をお願いします。
- 時間厳守をお願いいたします。
- 発表は、ご自身で演台上のキーボード、マウスを操作して行ってください。PC本体は、演台上にはありません。

### [ 討論者の方へ ]

討論時間は3分です。討論者は予め会場内の討論用マイクの近くでお待ちください。  
セッションの進行状況により、討論がキャンセルされることがありますので、ご了承ください。

### [ スライド作成における注意事項 ]

スライドは参加者が容易に理解できるよう作成してください。

- スライドの文字数：  
1枚のスライドに多くの文字を記載する込み入ったスライドはお避けください。
- スライド提示時間と講演内容：  
スライドに掲載されている内容を把握するのに十分な提示時間と講演内容のバランスに配慮してください。
- 字詰まりスライドを避ける：  
字詰まりスライドは、低視力者はもちろん、正常視力者にとっても判読が困難です。
- 使用する色の数ならびに混合色への配慮：  
1枚のスライドに多数の色を使用することは避けてください。背景色と文字とのコントラストが十分にあるものにしてください。

# 日本眼腫瘍学会役員一覧

役職別 50音順(平成25年8月6日現在)

名誉会員(敬称略)	役職	氏名	所属
雨宮 次生	顧問	金子 明博	横浜市立大学
猪俣 孟	顧問	中村 泰久	愛知医科大学
上野 脩幸	顧問	八子 恵子	北福島医療センター
大西 克尚	顧問	小島 孚允	小島眼科医院/さいたま赤十字病院
沖坂 重邦	理事長	後藤 浩	東京医科大学
加藤桂一郎	理事	安積 淳	神戸海星病院
玉井 信	理事	江口 功一	江口眼科医院/新潟大学
松尾 信彦	理事 (監事)	大島 浩一	国立病院機構 岡山医療センター
箕田 健生	理事 (学術・広報)	小幡 博人	自治医科大学
	理事	嘉島 信忠	聖隷浜松病院
	理事 (監事)	兒玉 達夫	島根大学
	理事	敷島 敬悟	東京慈恵会医科大学
	理事	鈴木 茂伸	国立がん研究センター中央病院
	理事	高比良雅之	金沢大学
	理事	高村 浩	公立置賜総合病院/山形大学
	理事	辻 英貴	がん研究会有明病院
	理事	林 暢紹	須崎くろしお病院/高知大学
	理事	溝田 淳	帝京大学
	理事 (学術・広報)	古田 実	福島県立医科大学
	理事	吉川 洋	宗像眼科クリニック/九州大学

# 日本眼腫瘍学会会則 Japanese Society of Ocular Oncology (JSOO)

## 第1章 総則

(名 称)

第1条 本会は日本眼腫瘍学会 (Japanese Society of Ocular Oncology, JSOO) と称する。

(事務局)

第2条 本会は事務局を東京医科大学眼科学教室 (〒167-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1) に置く。理事会の承認を得たうえで、会計業務など運営の一部を学会運営業者に委託することができる。

## 第2章 目的および事業

(目 的)

第3条 本会は眼腫瘍に関する最新の情報交換と会員相互の研鑽を目的とする。

(事 業)

第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行なう。  
(1) 総会の開催  
(2) 会誌の発行  
(3) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

## 第3章 会員

(種 別)

第5条 本会の会員は、眼腫瘍に興味を持つ眼科医 (含：研修医) およびその他の関係者をもって構成する。  
(1) 正 会 員  
(2) 顧 問  
(3) 名誉会員  
(4) 賛助会員

(入 会)

第6条 入会を希望する者は、所定の入会申込書に年会費を添えて本会事務局に提出し、理事会の承認を得なければならない。

第7条 顧問は、眼腫瘍研究の発展に特に功績のあった者で、理事会が推薦し、決定する。  
顧問は、本学会の運営が適正に行われるよう理事会等において指導する立場にある。

第8条 名誉会員は、眼腫瘍研究の発展に特に功績のあった者で、理事会が推薦し、決定する。

第9条 賛助会員は、本会の事業を授助するため所定の賛助会費を納入する団体および個人とする。

(入会員および会費)

第10条 正会員 (顧問を含む) の年会費は5,000円とする。なお、賛助会員の年会費は50,000円とする。

第11条 名誉会員は年会費を免除する。

(資格の喪失)

第12条 会員が次の各号に該当した場合は、その資格を喪失するものとする。

- (1) 退会したとき
- (2) 理事会の議決によって除名されたとき

(退 会)

第13条 会員が退会する場合には、事前にその旨を本会事務局に届け出なければならない。

(除 名)

第14条 会員が次の各号に該当するときは、理事会の議決により退会させることがある。

- (1) 本会会員として著しく品位を欠く行為があったとき
- (2) 会費を3年以上滞納したとき

## 第4章 役員

(役 員)

第15条 本会に次の役員をおく。

- (1) 理 事 長 1名
- (2) 理 事 若干名
- (3) 監 事 2名
- (4) 学術・広報 2名
- (5) 総 会 長 1名

(理 事)

第16条 理事は理事会を構成し、会の運営に必要な諸事項を審議決定する。

第17条 理事長は理事の互選によって選出される。理事長は本会を代表し、会務を掌握し、理事会を招集する。

理事長は収支予算および決算、役員人事など主な会務について、総会もしくはその他の方法により、会員に報告しなければならない。

(監事)

第18条 監事は理事会で選出される。監事は本会の財産、会計および会務の執行を監査し、理事会に出席して意見を述べることができる。

(総会長)

第19条 総会長は理事会で選出される。総会長は当該年度の総会運営に当たる。

(役員任期と欠員について)

第20条 理事長、理事、監事、学術・広報の任期は4年間とする。ただし再任を妨げない。理事の年齢は65歳を超えないこととする。役員に欠員が生じた場合の補充とその方法については、理事会でこれを決定する。総会長の任期は担当する総会が終了するまでとし、次年度総会長にその職務を引き継ぐものとする。総会長は連続して就任することはできない。ただし、再任を妨げない。

## 第5章 総会・理事会

(総会)

第21条 原則として総会を毎年1回開催する。開催時期は理事会と総会長の合議で決定する。総会での筆頭演者は本学会員でなければならない。総会長は会員以外の者を総会に招請し、総会で発表させることができる。

(理事会)

第22条 理事会は理事をもって組織し、原則として総会期間中に以下の事項を審議する。なお、理事会には理事長、総会長の承認を経て、関係者の参加を許可することができる。

- (1) 毎年度の事業および会計
- (2) その他、理事会が必要と認めた事項
- (3) 理事会は理事の3分の2以上の出席をもって成立する。ただし、予め委任状を提出した者は出席者とみなす。
- (4) 理事会の審議は出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは理事長の決するところによる。

## 第6章 会計

(会計年度)

第23条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終了とする。

(事務局の経費)

第24条 本会の事務局の運営に要する経費は年会費をもってこれに充てる。

(総会の運営費)

第25条 総会の運営費は総会の都度、参加費などを徴収してこれに充てる。参加費の額は年度毎に総会長が決定する。会員以外の講演者を総会に招請した場合、総会長もしくは理事会の裁量により、参加費を免除することができる。

## 第7章 会則の変更

(会則の変更)

第26条 この会則は理事会および総会の議決を経て変更することができる。

[附則]

この会則は平成22年10月10日から施行する。

平成23年11月29日一部改変

# 日 程 表

**1日目 9月14日**

9:00	9:00~ 受付開始
10:00	9:57~10:00 開会の挨拶
	10:00~10:54 一般講演 I 01~06 眼窩 I 座長: 笠井 健一郎 (聖隷浜松病院)
11:00	10:54~12:06 一般講演 II 07~14 眼瞼・結膜・涙丘 座長: 小幡 博人 (自治医科大学)
12:00	12:15~13:05 ランチョンセミナー オキユラーサーフェスからみたアレルギー性結膜疾患 座長: 福島 敦樹 (高知大学) 演者: 角 環 (高知大学)、福田 憲 (高知大学) 共催: 参天製薬株式会社
13:00	13:15~14:09 一般講演 III 15~20 眼窩 II 座長: 尾山 徳秀 (新潟大学)
14:00	14:09~14:54 一般講演 IV 21~25 診断・治療 座長: 古田 実 (福島県立医科大学)
15:00	14:54~15:30 一般講演 V 26~29 IgG4 関連眼疾患 座長: 高比良 雅之 (金沢大学)
16:00	15:40~16:30 特別講演 I 眼付属器におけるリンパ増殖性疾患: IgG4 関連疾患を含めて 座長: 後藤 浩 (東京医科大学) 演者: 吉野 正 (岡山大学)
17:00	16:35~17:25 特別講演 II がんにおけるcDNAマイクロアレイ解析と ゲノムワイド関連解析の実例 座長: 林 暢紹 (須崎くろしお病院/高知大学) 演者: 降幡 陸夫 (高知大学)
18:00	17:30~18:24 一般講演 VI 30~35 眼内腫瘍 座長: 鈴木 茂伸 (国立がん研究センター中央病院)
19:00	19:00~ 懇親会 会場: ザ クラウンパレス新阪急高知

**2日目 9月15日**

8:00	8:00~ 受付開始
9:00	9:00~9:54 一般講演 VII 36~41 リンパ腫 座長: 吉川 洋 (九州大学)
10:00	9:54~10:48 一般講演 VIII 42~47 小児腫瘍 座長: 敷島 敬悟 (東京慈恵会医科大学)
11:00	11:00~12:20 教育講演 座長: 林 暢紹 (須崎くろしお病院/高知大学) I 眼内悪性腫瘍の眼底画像診断 演者: 古田 実 (福島県立医科大学) II 眼部における転移性および 浸潤性の腫瘍 演者: 辻 英貴 (がん研究会有明病院)
12:00	12:25~ 次期会長挨拶 辻 英貴 (がん研究会有明病院)
	12:30~ 閉会の挨拶
13:00	

# プログラム

第1日目 2013年9月14日(土)

開会の挨拶 9:57～ 林 暢紹(須崎くろしお病院・高知大学)

---

一般講演Ⅰ 10:00～10:54(6題54分)

---

## [ 眼窩Ⅰ ]

座長：笠井 健一郎(聖隷浜松病院)

### 01 当科で経験した眼窩原発孤立性線維性腫瘍の3例

○上田 幸典、渡辺 彰英、木村 直子、木下 茂  
京都府医大

### 02 嚢胞状形態を呈した眼窩内悪性腫瘍の1例

○新井 淑子<sup>1)</sup>、松本 浩一<sup>1)</sup>、根本 裕次<sup>1)</sup>、溝田 淳<sup>1)</sup>、田中 文彦<sup>2)</sup>  
1)帝京大、2)帝京大 病理学講座

### 03 涙腺多形腺腫源癌の3例

○大西 陽子<sup>1)</sup>、吉川 洋<sup>1)</sup>、有田 量一<sup>1)</sup>、田邊 美香<sup>1)</sup>、石橋 達朗<sup>1)</sup>、大西 克尚<sup>2)</sup>、  
川野 庸一<sup>3)</sup>、名取 良弘<sup>4)</sup>  
1)九州大、2)和歌山県医大、3)福歯大、4)飯塚病院 脳外科

### 04 当院で経験した涙腺腺様嚢胞癌の3例

○田上 瑞記、安積 淳  
神戸海星病院

### 05 涙腺原発腺様嚢胞癌7例の治療成績

○上田 俊一郎<sup>1)</sup>、後藤 浩<sup>1)</sup>、長尾 俊孝<sup>2)</sup>  
1)東京医大、2)東京医大 病理

### 06 繰り返された亜全摘で広範な進展を来した涙腺多形腺腫の1例

○太田 優、嘉島 信忠、笠井 健一郎、上笹貫 太郎、末岡 健太郎  
聖隷浜松病院 眼形成眼窩外科

一般講演Ⅱ 10:54～12:06(8題72分)

---

## [ 眼瞼・結膜・涙丘 ]

座長：小幡 博人(自治医科大学)

### 07 眼付属器粘液腫の臨床病理学的検討

○加瀬 諭<sup>1)2)</sup>、吉川 洋<sup>3)</sup>、鈴木 康夫<sup>1)</sup>、中村 泰久<sup>2)</sup>、野田 実香<sup>2)</sup>、石田 晋<sup>2)</sup>  
1)手稲溪仁会病院、2)北海道大、3)九州大

# 一般講演抄録

## 01

## 当科で経験した眼窩原発孤立性線維性腫瘍の3例

○上田 幸典(うえだ こうすけ)、渡辺 彰英、  
木村 直子、木下 茂  
京都府医大

【目的】眼窩原発腫瘍において比較的稀な孤立性線維性腫瘍の3例を経験したので報告する。

【症例】症例1は64歳男性。約1年前から左視力低下を認め、平成21年5月21日に当科を受診した。左眼の視力低下(矯正視力0.3)、眼球運動障害、眼球突出、視野異常を認めた。MRIにて筋円錐内に22mm大の境界明瞭な造影効果の強い腫瘤を認めた。血管腫を疑い、平成21年6月12日摘出術を施行したが、腫瘤は視神経との癒着が強く、全摘出は不可能であった。他の臓器に病変を認めなかった。追加手術の希望は無く、経過観察中である。症例2は83歳男性。約半年前から左上眼瞼腫瘤を認め、平成25年3月8日に当科を受診した。右上眼瞼内側の皮下に可動性の無い腫瘤を触知した。CT検査にて眼窩縁上内側に25mm大の内部均一で境界明瞭な腫瘤を認めた。平成25年4月15日に摘出術を施行した。周囲との癒着は無く全摘出した。症例3は35歳女性。約半年前から起床時の右上眼瞼腫脹を主訴に、平成25年4月11日に当科を受診した。右上眼瞼中央に可動性のある腫瘤を触知した。MRI検査にて上直筋と眼瞼挙筋の間に21mm大の境界明瞭で内部不均一な造影効果の強い腫瘤を認めた。平成25年5月28日、摘出術を施行した。周囲との癒着は無く全摘出した。

【結論】孤立性線維性腫瘍は眼窩内の様々な部位に生じうる疾患である。

## 02

## 嚢胞状形態を呈した眼窩内悪性腫瘍の1例

○新井 淑子(あらい としこ)<sup>1)</sup>、松本 浩一<sup>1)</sup>、  
根本 裕次<sup>1)</sup>、溝田 淳<sup>1)</sup>、田中 文彦<sup>2)</sup>  
1)帝京大、2)帝京大 病理学講座

【緒言】眼窩における嚢胞は通常良性とされている。今回、稀と思われる嚢胞状形態を呈した眼窩内悪性腫瘍の1例を報告する。

【症例】79歳男性。左眼の角膜びらんを主訴に紹介受診。徐々に眼球突出を生じてきた。CTでは、左眼窩に境界明瞭な嚢胞状の病変を認めた。穿刺により黄色透明な液体が吸引され、細胞診でClass IIだった。血清腫瘍マーカー(CEA、AFP-QT、SCC)は陰性。再度眼球突出してきたため、生検を兼ねた左嚢胞部分切除術を施行した。内容液は前回と同様、黄色透明同様であった。さらに眼球突出してきたので、左眼窩嚢胞摘出術施行。内容液は同様でClass III。病理組織診では嚢胞壁及び眼窩最深部の検体に悪性細胞が認められた。一部腺腔様構造を形成し上皮性マーカー陽性の上皮性成分と紡錘形細胞を主体として多型性が強い筋上皮マーカー一部陽性の間質成分よりなり、共に高度の異型を示す腫瘍が認められ、悪性混合性腫瘍(malignant mixed tumor)と診断された。

【考察】本症例では、当初、画像、嚢胞吸引液細胞診、血清腫瘍マーカーなどでは悪性腫瘍の存在を示すことができなかった。眼窩嚢胞を見たときには、良性だけでなく、悪性腫瘍の可能性も考え、精査および対処していく必要があると考えられた。

## 03

## 涙腺多形腺腫源癌の3例

○大西 陽子(おおにし ようこ)<sup>1)</sup>、吉川 洋<sup>1)</sup>、  
有田 量一<sup>1)</sup>、田邊 美香<sup>1)</sup>、石橋 達朗<sup>1)</sup>、  
大西 克尚<sup>2)</sup>、川野 庸一<sup>3)</sup>、名取 良弘<sup>4)</sup>

1)九州大、2)和歌山県医大、3)福歯大、  
4)飯塚病院 脳外科

**【背景】**多形腺腫源癌は良性多形腺腫の上皮性分から二次的に癌を発生したと考えられる比較的まれな腫瘍である。今回その3例の詳細を報告する。

**【症例】**症例1は初回手術が21歳の男性。1973年当科で涙腺腫瘍を摘出し多形腺腫と診断されていた。1995年右眼球突出が再び出現、摘出された腫瘍の標本では主に多形腺腫の組織であったが一部に腺癌の像が認められた。その後頭蓋内転移、脊髄転移、髄液播種をきたし2005年に死亡した。

症例2は初回手術が16歳の男性。1986年涙腺腫瘍を摘出し多形腺腫と診断されていた。17年後の2003年再発と頭蓋内浸潤を認め経頭蓋的手術で摘出した。組織型は腺癌であった。術後放射線治療と化学療法を施行し10年後の現在再発を認めていない。

症例3は初回手術が37歳の女性。前医で1967年に涙腺腫瘍を摘出、多形腺腫と診断されていた。1年後再発で当科を紹介され手術、以後再発を繰り返し1988年4回目の再発手術で腺癌の像が認められた。脳外科、耳鼻科で手術を行ったが頭蓋内転移、骨転移をきたし2001年に死亡した。

**【結果】**初回手術時年齢は、16～37歳と比較的若年、3例中2例は男性であった。悪性診断までの期間は17～22年であった。悪性の組織型はいずれも腺癌であった。2例は悪性の診断から10年および13年で死亡した。

**【結論】**若年の涙腺多形腺腫は約20年後に悪性転化する可能性がある。組織型は腺癌となることが多い。悪性診断後の生命予後はおおむね10余年と考えられた。

## 04

当院で経験した  
涙腺腺様嚢胞癌の3例

○田上 瑞記(たがみ みずき)、安積 淳  
神戸海星病院

**【症例1】**42歳 男性。

2008年11月頃より、左眼球突出を認め2008年12月26日当科初診。視力に異常は無く、左眼に軽度の上転障害を認めた。MRI上は左涙腺部にcysticな腫瘤像を認め、2009年1月15日に左眼窩腫瘍摘出術を施行した。追加治療として2009年4月に重粒子線治療を施行され以後経過良好であったが、2010年10月当科再診時、放射線網膜症、続発性緑内障を併発しており抗VEGF硝子体内注射、汎網膜光凝固などを行うも、2011年9月再診時光覚消失となった。腫瘍の局所再発は認めない。

**【症例2】**30歳 女性。

2012年2月頃より、左眼球突出を認め2012年3月22日当科初診。視力、眼球運動に異常はなく、MRI上は左涙腺部にcysticな腫瘤像を認め、眼窩外側頬骨の骨破壊を認めた。同年3月24日に左眼窩腫瘍生検を施行し、頭頸部外科にて残存腫瘍切除となった。

**【症例3】**10歳 女児。

2012年6月頃より、左眼球突出を認め2012年7月7日当科初診。視力、眼球運動に異常はなく、MRI上は左涙腺部にcysticな腫瘤像を認め、同年8月17日に左眼窩腫瘍摘出術を施行した。腫瘍は骨膜と強く癒着し骨剥離の際に眼窩外側壁骨膜を一部損傷した。術後視力、眼球運動に異常は無く、PET-CT眼窩部MRI上も再発所見を認めなかったが、術後7ヶ月時のMRIにて骨膜に沿った腫瘍の再発が認められたため、今後頭頸部外科にて拡大切除予定である。

第31回日本眼腫瘍学会  
プログラム・抄録集

---

会 長：林 暢紹

事 務 局：医療法人 五月会 須崎くろしお病院  
〒785-8501 高知県須崎市緑町4番30号  
TEL：0889-43-2121 FAX：0889-42-1582  
E-mail：h-i-m@susaki-kuroshio-hp.or.jp

後援事務局：高知大学医学部眼科学講座  
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮  
TEL：088-880-2391 FAX：088-880-2392  
E-mail：im36@kochi-u.ac.jp

出 版：(株)セカンド  
 株式会社セカンド  
学会レポート <http://www.secand.jp/>  
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F  
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025



**WOC2014**

Tokyo | April 2-6

**World Ophthalmology Congress®**  
of the International Council of Ophthalmology

Host: Japanese Ophthalmological Society

Co-Host: Asia-Pacific Academy of Ophthalmology

- Attend hundreds of scientific sessions led by internationally renowned experts.
- Participate in cutting-edge continuing education opportunities.
- Learn about over 100 exhibiting companies.
- Connect with more than 10,000 attendees from over 120 countries.
- Discover Tokyo during the beautiful cherry blossom season.

WOC2014: Delivering world-class education, insight, and inspiration to a global ophthalmology community for improving quality eye care and preventing visual loss.

Register Today at [woc2014.org](http://woc2014.org) for Early Bird Rates



**April 2-6, 2014**  
**[www.woc2014.org](http://www.woc2014.org)**

 [facebook.com/woc2014](https://www.facebook.com/woc2014)

 [twitter.com/woc2014](https://twitter.com/woc2014)